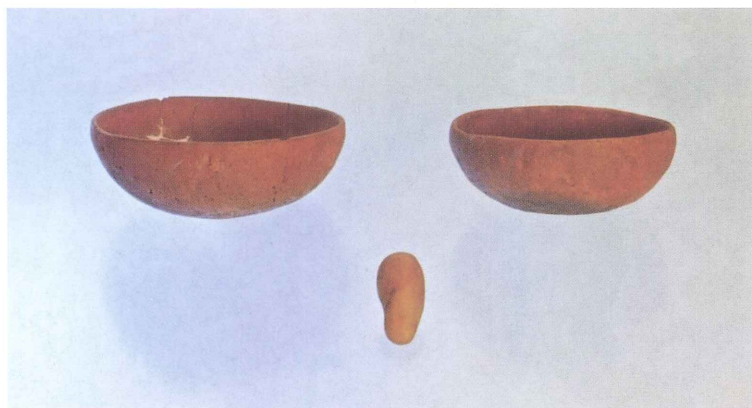


高千穂大学大宮遺跡円墳出土遺物



〔登録年月日〕平成二〇年三月二六日
〔種別〕有形文化財(考古資料)
〔名称〕高千穂大学大宮遺跡円墳出土遺物
〔点数〕五点
〔所有者等〕杉並区教育委員会
〔所在地等〕大宮二一九一(高千穂大学内)

高千穂大学大宮遺跡円墳出土遺物

高千穂大学大宮遺跡は旧石器時代、縄文時代中期、弥生時代、古墳時代、中世にわたる複合遺跡である。平成一四年の調査の際に古墳（円墳）の周溝が発見された。周溝の規模から墳径一三m余りの古墳と推測されるが、墳丘および埋葬主体は破壊されてすでに消滅していた。

本資料は、古墳の周溝を埋める土層内から発見されたもので、中でも溝底面付近から出土した一点の丸底の杯形土器（土師器）は、古墳時代中期の特徴を備えるものであり、本古墳の年代を推測することができる。

また、鉄製品の部品あるいは破片二点が出土しているが、製品の種類は不明である。めのう原石は全長五cm強、幅三cm弱のものだが、加工された痕跡などはなく、どのようなものかは不明である。

昭和三〇年（一九五五）刊行の『杉並区史』に「区内発見の高塚古墳は分布図並びに地名表に提示せる如く、僅か八箇所を過ぎない許りかその大半は湮滅し去って痕跡すら遺していない。」と記されている。これによると、本遺跡は「大宮町高千穂商業内」とされ「約三十基と伝う今湮滅してなし」という記載がみられ、当時においてすでにその詳細は不明なものとして扱われている。

今回の発掘調査の成果は、区内に存在したとされる古墳の伝聞的な情報を、発掘調査によって実証できたという点で重

要であり、登録した資料はそれを裏付けるものとして重要である。また、墳丘はすでに失われてしまっていたものの、周溝内から出土した土師器によってその年代が確定され、古墳時代中期の古墳として、今後都内の古墳時代像の解明に資することができる。

古墳の発掘調査としては区内では初例であり、また周溝内からの出土状況から推して、古墳の年代観を確定できる資料としても重要である。

【文化財所在地】

